

一穀 蕎麥

一 蕎麥 串鮑 寒中

松平右近將監

土岐 美濃守

蕎麥產地

〔本朝食鑑〕蕎麥訓曾波、一曰久呂無木、中

集解、蕎麥四方有之、東北最多而佳、西南少而不佳、夏土用後下種、八九月收之、早收者號新蕎麥、信州及野之上州、有三四月下種六七月收之者、以爲珍野之下州佐野、日光、足利等處、武總常之地、雖多出之而佳、尙不及信州之產也、性最恐霜雪、故信州以北諸州之產亦不爲佳、

〔和漢三才圖會〕百穀蕎麥中

按略○中處々有之、信州之產爲上、遠州三州薩州及上野下野亞之良、

〔續江戸砂子〕江府名產并近在近國

神大寺蕎麥 江戸より七里、中野の先、當所の蕎麥は潔白にして、すぐれてかろく、好味也、此所は黒ぼこ土にて、蕎麥に應せり、總じてそばは土のかろき地よろし、煉馬、中野、西ヶ原の土地などよし、亥かし穀目すくなきゆへ、賣買の勝手にならず、よつて上品ながら多く作らす、信濃蕎麥は

土地の亥まりたる所ゆへに、穀目多し、江府蕎麥切家業のものは、おほく信濃を用ゆと也、

〔奥羽觀蹟聞老志〕庸貢土產蕎麥 二迫文字村東山鬼首篠谷湯原等、山谷之間、尤爲上品、

〔古今著聞集〕飲食道命阿闍梨修行しありきけるに、やまうどの物をくはせたりけるを、これはなものぞと問ければ、かしこにひたはへて侍る、そまむぎなんこれなりといふを聞いて、よみ侍ける、

ひたはへてとりだにすへぬそまむぎに亥らつきぬべきこ、ちこそすれ

〔後水尾院當時年中行事〕一まゐらざる物は○中蕎麥そばを三角といへば、帝をみかどと申

〔新撰字鏡〕草藍魯甘反、染草、阿井、

藍實阿井

蕎麥雜載

藍